愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	【オン】教育方法論（幼・小）		
担当者(Instructors)	山川 法子	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

保育所、幼稚園、学校の現場での教育活動に必要な「教育の方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む）」の基礎的な知識を習得する。古典的な教育方法の特徴が現在の教育方法にどのような影響を及ぼしているかを考察しつつ、現代の教育方法を多角的に検討し、学習指導案の作成を試みる。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	講義と、それに対する課題への取り組み。 プレゼンテーションソフトを用いた模擬授業資料の作成(音声入力含む)。 掲示板等への意見投稿による意見交換。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	教育方法の意義と目的	歴史的に、学校において行われてきた教育方法について、概観する。	□
第2回	様々な教育方法（１）	現在の校舎・園舎や教室に備わる施設や設備の状況を知り、子どもたちの学びのために、どのような工夫がなされているかを考察する。	□
第3回	様々な教育方法（２）	教育方法のうちの授業の方法に焦点を当て、教師は授業において、子どもたちの学びを促進するために、どのような工夫を実施しているか、教材・教具に着目して考察する。	□
第4回	様々な教育方法（３）	教育方法のうちの授業の方法に焦点を当て、教師は授業において、子どもたちの学びを促進するために、どのような工夫を実施しているか、話し方に着目して考察する。	□
第5回	授業計画の考え方と学習評価の方法	授業を計画するにあたって、教師はどのような考え方を必要とするのかを、子どもの学習成果の評価に焦点を当てて検討する。	□
第6回	授業の技術（１）	子どもの発達段階を考慮した課題とは何かを考察する。	□
第7回	授業の技術（２）	授業で扱う題材に対し、どのような教材を用い、どのような方法で活用すると効果的かを検討し、模擬授業のための資料作成を行う①。	□
第8回	授業の技術（３）	授業で子どもに提示する方法としての情報機器の利点・欠点を知り、どのような授業で、どのような情報機器を用いることが可能か、何を用いると効果的かを考察するとともに、板書・カードなどと情報機器の利用効果を具体的に比較検討し、実際の授業の実施を想定する。(模擬授業のための資料作成②)	□
第9回	授業の技術（４）	現在、授業で多く用いられる授業形態を知り、どのような授業・場面で、どのような形態を用いると効果的かを比較検討し、実際の授業の実施を想定する。(模擬授業のための資料作成③)	□
第10回	授業の技術（５）	授業において、子どもたちの学習に効果的な発話を意識した音声を、プレゼンテーションソフトに入力する。(模擬授業のための資料作成④)	□
第11回	学習指導案の作成（１）	授業の組み方について、これまでに計画されてきたものを参考にし、実際の授業を想定して単元(学習指導案)を組み立てる。	□
第12回	学習指導案の作成（２）	授業の組み方について、これまでに計画されてきたものを参考にし、実際の授業を想定して本時(学習指導案)を組み立てる。	□
第13回	模擬授業（１）	模擬授業実施と同様のプレゼンテーションソフトを利用した資料を仕上げ提出する。	□
第14回	模擬授業（２）	数名グループ内において、各自作成の模擬授業資料を確認し合い、意見交換を行う。	□

第15回	学校教育における教育方法の現実的課題探究	現在の学校教育において、教育方法に関してどのような課題が存在しているかを検討する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

とくに前半の授業の前には、前回学んだことと次の回の内容との繋がりや関わりについて、自分なりに予習をすること(2時間程度)。また、各回の授業後には内容を振り返り、提示された課題に期限までに取り組む(2時間程度)。　後半の授業回では、それまでの授業で学んだ内容を総合し、更にインターネット等を活用して情報を得、自分なりに工夫した模擬授業資料や学習指導案の作成を行う(4時間程度)。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題に対しては、原則として次回に解答・解説を行い、質問等については、掲示板等を利用して全体で共有します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	幼稚園や学校などの現場における教育活動に必要となる、教育の方法・技術の基礎的な知識を習得しているか。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	習得した基礎的な知識から、その考え方を理解して、自分なりに思考・判断し、模擬授業等で実践できるか。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	主体的な実践を通して、実際の教育方法の検討と現実的課題の探求を行えるか。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			8%	92%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

各回の課題（37%）、模擬授業資料作成(PowerPoint利用・音声入り)（30%）、学習指導案（25%）、掲示板等への意見表出（平常評価：8%）で評価する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示　文部科学省）	
2	「幼稚園教育要領」（平成29年3月告示　文部科学省）	
3	「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」（平成29年3月告示　内閣府、文部科学省、厚生労働省）	
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		
2		
3		
4		
5		